

●京都府立るり溪少年自然の家

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p>見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南山城少年自然の家を廃止し、るり溪少年自然の家にその機能を集約すべきである。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月に京都府立南山城少年自然の家を廃止。 ・平成25年度に一時休館し、クラフト棟の新設、本館の屋根改修や洋式トイレの増設などの施設設備工事を実施。 ・環境教育にも役立つよう府有施設屋根・土地貸し太陽光発電事業で太陽光パネルを設置。 ・広域振興局と連携し、「なんたん暖炉」を設置。 ・各教育局で実施される校長会議での広報活動の強化。
<p>取組の成果</p>	<p>◇施設整備後の平成26年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約14%増加 ・宿泊者数が約3%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆宿泊室利用率が約40%と大きな改善はみられない。</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□前回指摘を踏まえた改善が順調に進んでいる。</p> <p>□何にコストをかけるのが利用率及び利用者の拡大に寄与するのかをよく分析・研究してはどうか。</p> <p>□府の負担率は高く、経営的には課題を抱えているが、設置意義及び現況と照らし合わせた上で総合的に検討すべき。</p> <p>□小学校に限定した施設のような印象を与えているので、特に関西一円のボーイスカウト等との連携・営業の検討が必要。</p> <p>□電話での予約ではなく、HPから予約できるような検討が必要。</p>
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <p>◎施設の統廃合後の利用者動向やニーズを分析し、利用手続きも含め更なる利用者拡大の取組を検討すること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○利用者層や地域別利用状況、ニーズを分析し、学校の利用拡大に資するとともに、青少年団体や大学の研修・スポーツ合宿等の誘致に向けた広報活動を充実する。</p> <p>○閑散期の対策として、クラフト棟での体験活動や近隣施設・地元団体と連携した取組など魅力あるプログラムをつくり提供する。</p> <p>○予約方法について、HPや電子メールを活用し、利便性が向上するよう改善を図る。</p>